

名鉄パノラマカー「逆さ富士型」行き先表示板

〈静岡県富士山世界遺産センター 学芸課 教授 大高 康正〉

パノラマカーの愛称で親しまれた名古屋鉄道(以下、名鉄)の7000系および7500系車両をご存じの方は多いのではないのでしょうか。2階に運転席を移動して、前面を展望席としたデザインのもので、7000系は1961年から2009年まで、7500系は1963年から2005年まで運用し、名鉄の看板車両として活躍しました。現在は惜しまれつつ引退していますが、愛知県豊明市の中京競馬場に中間車両を含む3両編成〔写真1〕、岡崎市の舞木検査場に中間車両を含まない先頭車2両編成が静態保存されています。舞木検査場はイベント時のみ一般公開していますが、中京競馬場では広い敷地内に「パノラマステーション」という一角を設けて、開催日以外にも一般公開をしています〔写真2〕。先頭車1両はイベントスペースに利用されているようですが、反対側の先頭車は扉を開錠し、客室内部を見学できますので、展望車からの景観を席に座って体験することができます。



写真1

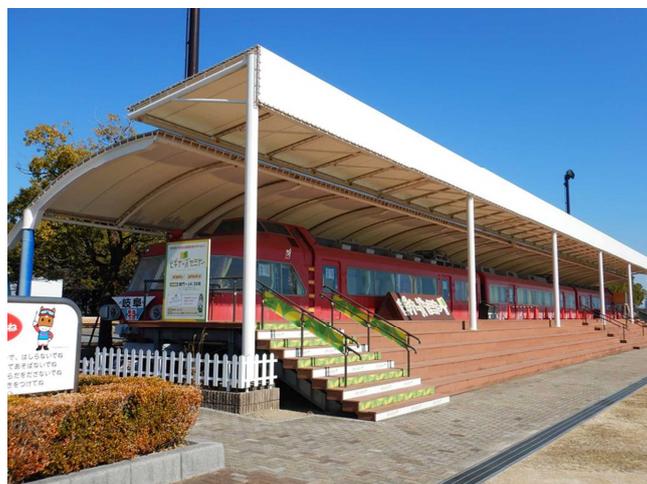


写真2

この 7000 系および 7500 系パノラマカーなどには、先頭車に「逆さ富士型」と呼ばれていた行き先表示版が設置されていました[写真3]。なぜ「逆さ富士型」と呼ばれたかは写真を見ていただければ一目瞭然ではありますが、この名称は正式なものではないようです。上下2段に色分けされている上段が白色、下段が青色に着色されていますが、上段には行き先を、下段には運行種別(特急、急行など)を表示しています。本来の「逆さ富士」であれば配色は逆になるはずですので、あくまでも行き先表示版のデザインがまずあって、結果そう呼ばれることになっていったものと思われま



写真3

実はこの行き先表示版、パノラマカーが運用された当初からあったものではありません。この位置には「Phoenix」と入った「フェニックスエンブレム」が設置されていました。7000 系がデビューした翌年の 1962 年、パノラマカーは鉄道友の会選定のブルーリボン賞(第5回)を受賞します。同年5月26日の受賞式典に運行された車両には、パノラマカーを設計した名鉄の技術者白井昭氏がデザインしたブルーリボン賞受賞記念のヘッドマークが付けられました(『鉄道技術者 白井昭』)。同年6月25日の名鉄のダイヤ改正でパノラマカーが増両され、また運用される路線の範囲が広がったことによって、乗車間違いを防ぐために行き先表示板が前後に設置されることになります。この行き先表示板のデザインは、白井昭氏によるブルーリボン賞受賞記念のヘッドマークが採用されることとなります。

つまりは、ブルーリボン賞受賞記念ヘッドマークの見た目が「逆さ富士」に似ていたこと、このヘッドマークが行き先表示板に採用されたこと、そこからパノラマカーの行き先表示板が「逆さ富士型」と呼ばれるようになった模様です。パノラマカーを設計、ブルーリボン賞を受賞し、「逆さ富士」に似たヘッドマークをデザインした白井昭氏ですが、1969年には名鉄から大井川鉄道に移っており、井川線のAPT式新線の開業、蒸気機関車の修復や動態保存を手掛け、大井川本線でのSL運行を開始することになりました。

【参考文献】

- ・『名古屋鉄道百年史』(名古屋鉄道、1994年)
- ・高瀬文人『鉄道技術者 白井昭 パノラマカーから大井川鉄道 SL 保存へ』(平凡社、2012年)
- ・白井昭電子博物館 <http://www15.plala.or.jp/hidekih/rack000.htm>

〔謝辞〕

本コラムの執筆に当たり、ご協力をいただきました名古屋鉄道株式会社お客様センター様、中京競馬場様に御礼申し上げます。

